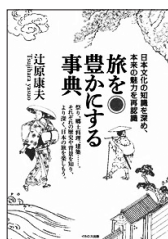


資料室便り

交通の専門図書館 交通経済研究所資料室

■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）



『旅を豊かにする事典』

辻原康夫著
イカロス出版発行
2024年12月／4,400円(税込)
所蔵箇所：信濃町

本書は、文化的な背景なくして旅の本質は語れないというスタンスに立ち、旅行素材に通底する歴史・民族・文化の基礎的な知識をまとめたものである。信仰、祭りと芸能、自然と温泉、建築と美術、食生活、伝統と工芸品、ふるさとの文化、歴史と文化施設の各章において、それぞれの背景や概要がコンパクトに記載されており、観光に携わる人にとって有益な資料である。

例えば、火山列島である日本の源泉数は2万7,000を超え、温泉利用の宿泊客数は年間約1億3,200万人であり、世界一の温泉大国と言われる。温泉を楽しむために、温泉とよぶ基準、温泉効果を高める方法、泉質の種類、長年の経験から生み出された入浴スタイル、マナーなどを知ることが役立つ。また、日本独特の駅弁文化は、1885年に宇都宮駅に登場した汽車弁当にはじまると言われ、現在2,000種類を超える。東日本では古くから豚の飼料となるサツマイモなどの栽培が盛んであり、西日本では労役用の家畜として牛を中心に飼育していた。そのため、豚肉を使った駅弁は東日本、牛肉は西日本に多い。（古森）

■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

『国鉄の復興』 （鉄道75年記念出版第1集）

運輸省編集・発行

1948年3月
所蔵箇所：上野（一般公開中）

2022年10月、わが国の鉄道は150周年を迎えた。本書は、その中間地点となる75周年を記念し当時の国鉄を運営していた運輸省が企画した一般公募論文の記録である。

終戦間もないこの時期、国鉄は復興のための輸送に不可欠な存在であり、その動向は国民の関心を集めていた。そこで国鉄は、利用者を運営の重要な協力者と見て広く意見を求めたのであった。

本書は入選3作を収録するほか、多数の応募論文を抜粋し、項目別に整理しているのが特徴である。内容は、経営や財政の効率化、設備やサービスの改善など多岐にわたる。例えば、翌年の公共企業体発足を予想させる「公団組織」、観光列車の新設や当時不足していたエネルギー資源（石炭）の節約法など、様々な提案を紹介している。編者は投稿の7割近くは国鉄関係者であろうと推測しているが、すべての論文に込められた国鉄復興への熱意に対し深い感謝の意を述べている。

なお、本書の企画編集には当法人が運輸調査局時代に関わっており、第2集『観光事業の再建』も資料室でご覧いただくことができる。（田邊）

資料室からのご案内

蔵書オンライン検索、新着図書・雑誌の情報、月別新着図書目録、所蔵社史・年史のリストなどは、資料室HP（<https://www.itej.or.jp/about>）をご覧ください。

担当：古森崇史、原祥太、土方規義、田邊由佳

